

第一回令和元年度

川崎駅周辺地区スマートコミュニティ事業委員会 開催報告

2019年11月22日（金）に川崎市役所第4庁舎にて、第一回令和元年度 川崎駅周辺地区スマートコミュニティ事業委員会を開催、委員26名、市関係者12名にご参加いただきました。

第一回委員会では、今後の川崎駅周辺地区のスマート化に向けて、有識者によるご講演や事務局からの情報提供を実施いたしました。以下概略を紹介いたします。

1. 有識者によるご講演

日本電信電話株式会社 大西様による「スマートシティを実現するデジタルデータインフラ」についてのご講演

日本電信電話株式会社 新ビジネス推進室 大西様に、札幌市や横浜市の事例をもとに、データ連携・利活用のプロセスやキーファクターなどについてご講演いただきました。（以下、講演内容抜粋）

- デジタルテクノロジーの進展によりあらゆるものがデータ化され、ここ10年で90倍のデータ量となっている。
- 札幌市の事例では、市内の小売店舗等35団体から共有していただいたインバウンド顧客の購買データを分析することで、新たなマーケティング施策立案および各店舗売上増加に一定の成果をあげている。
- これらのデータを活用するうえで、データ整形、個人情報削除、区分付与といったデータ整備に手間がかかる。札幌市では、データ整備方法をAIモデルに学習させることで、自動的に行えるようにしている。
- データ利活用においては、デジタル化により生まれたデータで、何を見える化し、どのような便益・価値を生み出していくべきかといった、共通のゴールを関係者間で共有することが重要である。



2. 事務局からの情報提供

近年のスマートシティに関する政府・官公庁の動向／各省庁概算要求の状況について

事務局より、スマートシティの動向や次年度の各省庁の概算要求状況について情報提供を実施。

先進的なスマートシティに関する個別事例紹介

事務局より、スマートシティの先進事例として、“SideWalk Toronto”の事例紹介を実施。（以下、紹介内容抜粋）

- “SideWalk Toronto”は、米Alphabet社傘下の“SideWalk labo”がカナダ・トロント市で進めているスマートシティ開発プロジェクトである。
- 今年5月に公表された都市計画マスタープランには、自動運転やMaaS、ダイナミックな空間活用手法、データの管理・活用手法といった、最先端の技術や独自のアイデアなどが盛り込まれており、世界中から注目を集めている。



3. 事業委員会会員の活動紹介

グリッドデータバンクラボの取組について

東京電力パワーグリッド 木村様より、グリッドデータバンクラボの取組についてご紹介いただきました。（以下、紹介内容抜粋）

- グリッドデータバンクラボは、東京電力パワーグリッド、中部電力、関西電力、NTTデータが出資している有限責任事業組合で、現在52団体が参画している。
- 当組合は、電力データを活用した社会貢献、電気事業法の制限により活用が難しい電力データの利活用環境の整備、電気事業法の規制緩和などを目的としている。
- 電力利用状況等のデータの見える化が行われていないと、机上の空論に陥りがちとなる。そのため、まず現状の実態を把握したうえで、課題に対する打ち手を検討することが重要である。

